



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



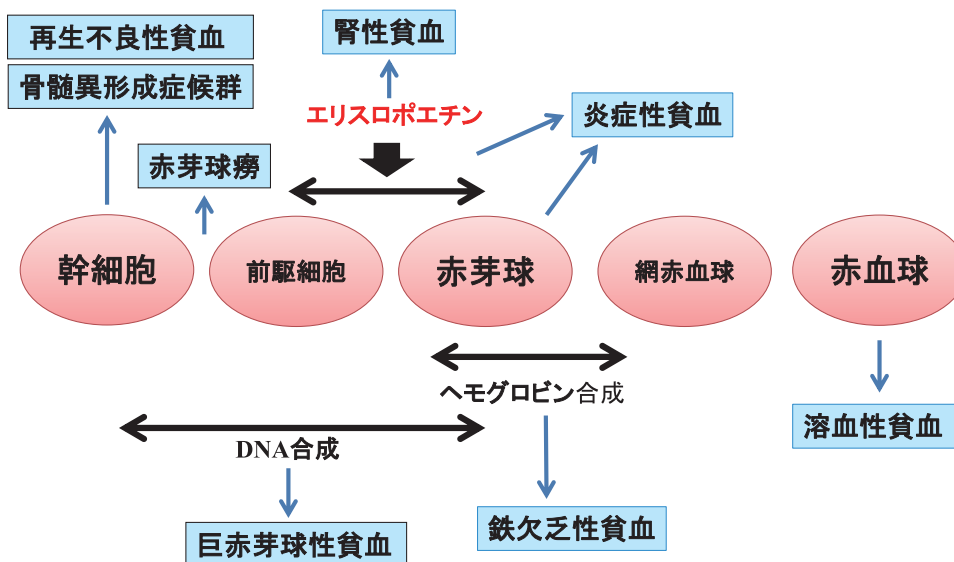
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

血液内科

シニア世代の貧血

貧血とは、赤血球・ヘモグロビン濃度が減少した状態で、貧血の原因は多様であり、①赤血球産生の低下(造血障害)、②赤血球破壊(溶血)、③出血に大別されます。赤血球産生が低下する原因には鉄分やビタミンB12などの材料不足、造血幹細胞の異常、腎障害によるエリスロポエチン低下などがあります [図]。



[図] 貧血の種類と原因

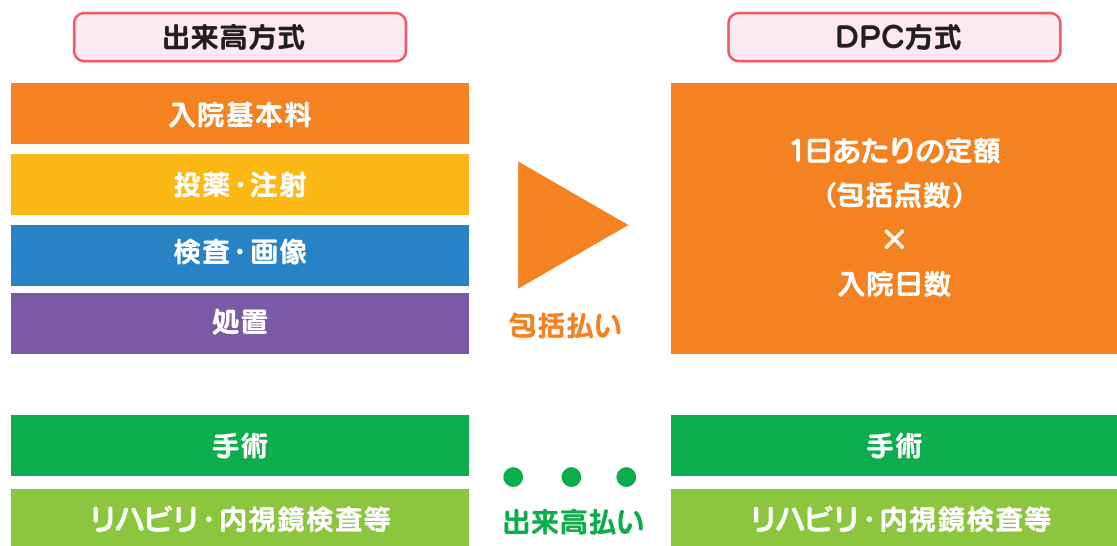
貧血といえば若い女性の病気というイメージがありますが、高齢者にも多く存在しており、65歳以上の約10%が貧血状態にあるといわれています。ただし、若い女性と高齢者では貧血の原因に大きな違いがあります。高齢者の貧血に多い原因としては、①胃腸からの出血による鉄欠乏性貧血、②慢性炎症に伴う貧血、③骨髄の病気(骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫など)といったものがあります。

貧血の典型的な症状は労作時の動悸や息切れですが、高齢者では活動度が低下しているために息切れを訴えず、元気がなくなる、反応が鈍くなるなどの症状を認めますが、「歳のせい」にされて発見が遅れることになりがちです。シニア世代の貧血には悪性腫瘍や血液疾患などの重大な原因が隠れている可能性が高いので、貧血を認めた時にはその原因を検索すること、血液内科を受診することが勧められます。

(血液内科 部長 大塚 英一)

DPC包括支払い制度の仕組み

当院では、DPC包括支払い制度を導入しています。DPC包括支払い制度とは、傷病名、手術、処置、検査等により患者さんの入院の治療内容を分類（診断群分類といいます）し、厚生労働省が定めた診断群分類点数に基づき1日当たり定額の点数から医療費を計算する制度のことです。診療の標準化・透明化、診療の質の向上を目的に導入されました。DPC制度が導入される前は、医療費の算定は出来高払い方式でした。出来高払い方式は、薬を使えば使うほど医療費は高くなる、検査をすればするほど医療費は高くなるというものでした。それに対し、DPC制度は手術や内視鏡検査など出来高払い方式のままのものを除き、診断群分類ごとに1日当たりの医療費が決められているため、薬の使用量や検査の回数によって医療費が変わることはありません。病名は医師の診断に基づき決定されますが、診療情報管理室では、医事課と連携を取りながら医師の病名決定支援を行っています。



Q: 入院された方全てが「DPC」対象となるのですか？

A: 病名と治療内容によって該当しない場合があります。また、労災保険、自賠責保険を利用される方や、出産等で自費診療に該当する方は対象外となります。

Q: 出来高払い方式と比べて入院費は高くなりますか？

A: 患者さんの病名と診療内容によって1日当たりの医療費が決定するため、高くなることもあれば、安くなることもあります。

Q: 複数の疾患を抱えている場合、病名はどうなりますか？

A: 入院医療費を決めるための病名は、1回の入院で1つだけとされ、その入院で「医療資源（治療にかかった全ての費用）を最も投入した病名」を主治医が決めます。

(診療情報管理室 診療情報管理士・主任 天方 多恵)



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら